めだかくらぶ

文責　端　晶子

９月のお楽しみプログラム
手作りおもちゃを作ろう

９月のお楽しみプログラムは、５組の参加がありました。３種類のおもちゃの中からどれか好きなものを作り、持ち帰ってもらいました。作り方は簡単なのですが、なかなか家では作れないかもしれませんね。参加された皆さん、会話も弾んで、子どもたちを囲んでたくさんお喋りして和やかな手作りの時間でした。

リングウエーブ

このようなおもちゃを作りました

スポンジボール

センサリーボトル

どんぐり

秋の戸外は子どもたちにとってとても刺激が多く、たくさん気付いたり感じたりすることができます。色々な形や綺麗な色の落ち葉。カサカサと踏みしめる音、風にふかれて踊るように見えたり、子どもはわくわくすることでしょう。中でも子どもが大好きなのがどんぐりです。帽子をかぶっているものがあったり、大きいものや少し小さいもの、種類によって形も様々。見つけると夢中で拾ったり、時にはいつ？という感じでポケットから出てきたりすることもあるでしょう。「みんなちがって　みんないい」のフレーズで有名が詩人の金子みすゞさんが「どんぐり」という詩を残しています。100年くらい前の詩ですが、今と同じような光景が目に浮かびますね。

どんぐり

金子みすゞ

どんぐり山で
どんぐりひろて、
お帽子にいれて、
前かけにいれて、
お山を降りりゃ、
お帽子が邪魔よ、
辷ればこわい、
どんぐり捨てて
お帽子をかぶる。
お山を出たら
野は花ざかり、
お花を摘めば、
前かけ邪魔よ
とうとうどんぐり
みんな捨てる。

どんぐりの種類

「どんぐり」という木はありません。どんぐりは、ブナ科の植物の実の総称であり、コナラ、ナラガシワ、ミズナラ、クヌギなどの木の実を指します。日本には22種類あります。

食べられるの？

縄文時代には積極的に食べられていたようです。なぜなら、縄文遺跡の地下の貯蔵庫からは、クリやクルミなどと一緒に蓄えられていたどんぐりが発見されています。縄文人はどんぐりを石皿とすり石を使ってすりつぶし、ほかの木の実や肉などと合わせて火であぶった後、クッキー状にして食べていたと考えられています。昔は貴重な食材だったのですね。現在はリス、鳥類、熊など、多くの野生動物がどんぐりを重要な食料源として食べます。

虫がいるかも

虫がいるどんぐりといないどんぐりの違いは？１～２日水に浸けておきます。浮いてきたどんぐりは虫が食べて中が空洞になっているということ。飾ったり、工作する場合は沈んだどんぐりを使いましょう。また煮沸や冷凍する方法もあります。保存するには直射日光ではひび割れの恐れがあるので、陰干しがおすすめ。新聞紙などの上に広げ、風通しのいい場所で乾かしましょう。

「めだかくらぶ」毎日開催中

地域の親子を対象に、保育室や園庭あそび、毎月のお楽しみプログラムや育児相談を行っております。

【開催日】平日の月～金曜日
【時間】10時00分～11時30分

今月のお楽しみプログラム
10月21日（水）
『作ってあそぼう』
10月生まれの誕生会も行います。

ふれあいランチ
10月21日（水）
22日（木）